

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成21年初冬

其の
一



「帰ってこいよ〜。」願いを込めて放流



子ども達もかわいい
稚魚を見て大喜びです。



「川の仕組みとサケの生態」に
ついて資料を見ながら勉強



改装中の旧雨煙別小学校校舎前で記念撮影

サケ稚魚の放流

「昔のようにサケが帰ってくるような川にしたい！」

「サケが人の心を豊かにする」

○日時…平成21年4月12日(日)
○場所…「高橋の沢」雨煙別川支流

サケ稚魚の放流が旧雨煙別小学校の裏側を流れる、高橋の沢(雨煙別川支流)で行われました。この放流活動は、栗山青年会議所、NPOくりやま等を中心、昨年からは成長したサケの稚魚、約5,000匹が川に放流されました。放流に先立ち「川の仕組みとサケの生態」と題した勉強会が行われ、サケが川に戻ってくる不思議、オスとメスの見分け方、サケの好む川、などを学びました。

各団体から
情報提供
NPOくりやま
アイヌ語地名の
研究発表会報告

会議では流域が一体となって取り組む活動や、清幌床止の魚道改良工事、今後の河川工事で発生する残土(泥炭)の有効利用について意見交換を行いました。また、各団体から活動状況や今後の予定について報告がありました。



○日時…平成21年9月1日(火) 14:00~16:00
○場所…江別河川事務所 会議室

第18回 夕張川流域会議が開かれました

地名に関する研究発表をする。夕張川にもイトウがいたという話を聞いており、昔はイトウが当たり前にいたということになる。

おっ鳥クラブ
夕張川中流域での
探鳥会報告

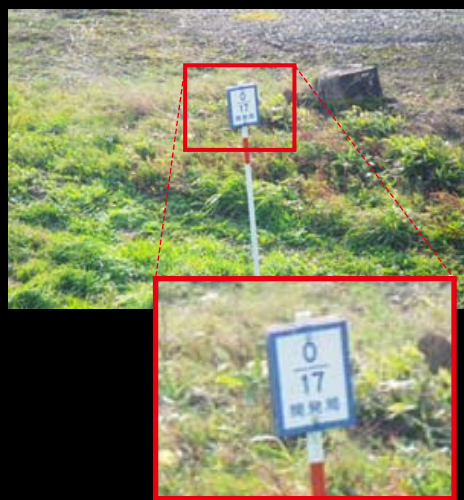
6月7日に探鳥会を中流域で行ない、36種確認した。シマアオジを今回3人が確認したが、数は依然少ないと思う。草地環境がなくなっている表れかと思う。今年も本流だけでなく阿野呂川、雨煙別川でも多く見られている。

夕張川
なんでも探検隊
総合学習かわ塾
川の楽習会報告

春にヤリキレナイ川でサケ稚魚放流ができなかった。来年は実施したい。7月ヤリキレナイ川の「由仁小学校の総合学習」では、魚を獲り観察した。また、恒例の「夕張川かわ塾」では川下りを行った。9月には「由仁理科クラブ」の方々と川を使った学習のレクチャーを開く。また、「南幌みどり野小学校」と川の学習会を行なう。

○意見交換の詳細は、石狩川開発建設部ホームページをご覧ください。
(<http://www.is.hkd.mlit.go.jp> から「事務所・事業所・管理所」をクリック)

問 夕張川クイズ これはなん でしょうか?



旧雨煙別小学校が 環境学習の拠点として オープン

運営は発足したNPO団体と
ボランティアスタッフが担当
○日時…平成21年5月29日(金)
○場所…栗山町旧雨煙別小学校

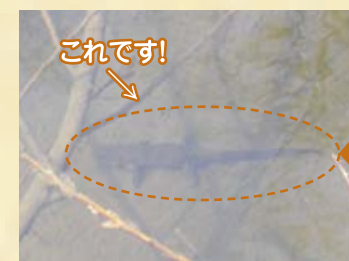


栗山町の旧雨煙別小学校が「コカ・コーラ教育・環境財団」の支援を受け、環境教育などを行う宿泊可能な施設としてオープンしました。運営は、「NPO雨煙別小学校」が担当します。この校舎の裏側を流れる高橋の沢(雨煙別川支流)は、4月にサケの放流も行なわれており、これから地域の特色を活かした様々な環境学習プログラムが予定されています。

会場は栗山町の子も達で満員。面白くて、ためになる魚の話の話を聞きました。



- 全長は、115~200mm、全身黒褐色
- 幼生は、えら部分にバランスといわれる突起を持つ
- 卵は、らせん状でタラコのように対になっている
- 幼生は池や水溜りにいるが、成体は草地、森林に棲む



これです!



黒茶色はみんなエゾサンショウウオ!

卵のうです。タラコみたいですよ。

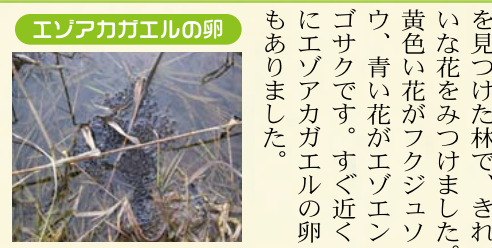
雪解けがほぼ終わった4月12日、夕張川のある小さな沢の水溜りでエゾサンショウウオの卵のうを見つけた。沢の水が溜まって写真のような池になっているところで水深は30~40cmくらいでしょうか。

夕張川の生き物たち

池の中に沈んだ枝に絡みつくように卵のう(タラコ)みたいなのが、黒褐色にありましたが、みんなエゾサンショウウオです。北海道レッドデータブック留意種で、近年、その数が減っているそうです。



フクジュソウとエゾエンゴサク

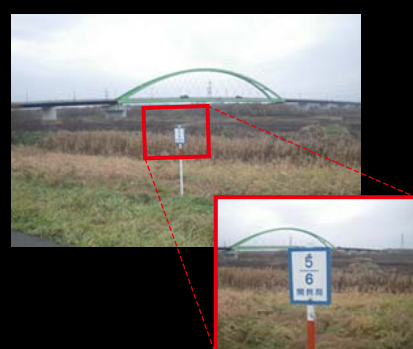


エゾアカガエル卵



見つけた場所は、こんな小さな水溜りです。

問の答え 距離標(キロポスト)



開拓の歴史は水害との闘いの歴史と言われますが、夕張川も同様に幾度も水害を受けています。由仁町大乗寺境内にある「溺死者の碑」は、明治31年9月に起こった水害犠牲者(流出したマツチ製軸工場の犠牲者34名)の慰霊碑です。この年は春季以来しばしば降雨があったようですが、9月6日から8日にかけて豪雨(6日午前10~20より8日午前8~40まで総雨量157mm)となり、夕張川が出水しました。角田村(現栗山町)では、流出家屋92戸、死者82名という被害が記録に残っています。



由仁町大乗寺の「溺死者の碑」栗山町方田寺にも慰霊碑がある。

碑文には、
「明治三十一年九月六、七日未曾有ノ洪水アリ(中略)一夜二十七拾有餘名ノ溺死者ヲ出ス
中二七我工場ノ死者三十四名之内全戸非命ノ死ヲ致シ(中略)」とある。

川と牛馬 氾濫する川 夕張川の水害の歴史

川遊び入門

其の伍

「ライフジャケット」

今回は、川遊びの必需品「ライフジャケット」(救命胴衣)についてです。



ライフジャケット(救命胴衣)は、PFDともいいます。今や川や海のレジャー、スポーツの必需品になっているといっているでしょう。川は、単に上流から下流へ流れているのではなく、速く流れているところ、遅く流れているところ、渦をまいているところなど、多種多様な流れがあります。流体力学のダイナミズムが集約されているとも言えるわけで、そこを泳ぐためには高度の水泳能力とそれを助ける浮力(ライフジャケット)が必要になります。もちろん、万が一、流された場合は命を守ることも大切な安全用具になります。川遊びでは必ずライフジャケットを着用するようにしましょう。

ライフジャケットを選ぶ場合の注意！！

- 1. 必ず体格にあったサイズを選ぶこと**
大きすぎれば脱げやすく、小さすぎれば動きにくくなります。装着にあたっては、ファスナー、バックル、紐などは必ず締め、しっかり体にフィットするように調節することが大切です。
- 2. 浮力が十分なものを選ぶこと**
小児用でも3kg程度の浮力が必要。大人はそれ以上の浮力が必要になるが、必要な浮力の目安は頭の重さになります。(なぜなら、呼吸するためには、頭を水面より上に出しておかなければならない)。ちなみに、体重のおよそ10%が頭の重さと言われています。ライフジャケットにはいくつもの種類がありますが、子供用なら股の下を通すベルトが付いていたほうがより安全です。また、頭の後ろに枕状の浮力体があれば、仰向けの姿勢で浮くことが容易になります。



体に合っているか、チェックしてあげましょう。

ファスナー、バックル、紐等を必ず締め、体にしっかり密着させることが大切です。

由仁小学校が ヤリキレナイ川で 総合学習

増水でも、子ども達は「もっと川にいたいよ」

○日時：平成21年7月9日(木)
○場所：ヤリキレナイ川(由仁町)

前日の雨でヤリキレナイ川は増水。普段は、15cmくらいの浅いこの川も深いところは、1mの水深がありました。洪水時には、大きな魚が活発に動いたり、小魚も流れのない物影、大きな石や樹木の影などに避難しているの、一網打尽ははずれませんが、どうも魚をうまく捕まえられません。上流へ移動してしまっただのか？ 例年よりかなり少ない数になってしまいました。それでも子ども達は大喜びでした。



獲った魚を学習ノート*で調べる

魚の名前	数	子ども達と学んだこと
エソウグイ	10	ウグイとの違いは、くちさが長いウロコの色が少し違う
ヤチウグイ	1	ウグイの仲間、準絶滅危惧種
フクドジョウ	多数	ドジョウは「ヒゲが10本」フクドジョウは「ヒゲが6本」
ドジョウ	5	
イバラトミヨ	多数	水草に巣をつくる、背中にトゲがある
スジエビ	2	数が少なくなってびっくりから揚げで食べるとうまい
ギンブナ	1	金色のフナは、キンブナ。体高が違う
モツゴ	1	北海道にはもともといなかったコイ科の仲間
ヒル	1	魚に吸い付いて血や体液を吸う
カワニナ	5	ホタルの幼虫のえさになる貝

*学習ノート:地元有志が編集した「たんけん夕張川学習ノート」 *環境省レッドデータブック2003

RAC(川に学ぶ体験活動協議会)の 指導者養成講座が開催

15名が指導者資格を取得

○日時：平成21年6月26(金)〜28日(日)
○場所：栗山町ふれあいプラザ、阿野呂川、夕張川

この講習会の開催のきっかけは、二ユースレタでも度々ご紹介した「川の学習手引書」を検討する会合での議論でした。川の学習手引書を活かすために、また川の活動を楽しく安全に行なうために指導できる人材を育てようというのが発端です。講習会は3日間で21時間の講座が行なわれ、15名の指導者が誕生しました。

川という自然の理解

河川の生態系、自然の理解を目的に座学と実習を実施



阿野呂川で川歩き実習

川と人、社会、文化の関わり

川と農業の関わりを学ぶためハサンベツ地区の水田を視察



ハサンベツの里山見学

川に学ぶ体験活動の基礎技術

川の生態系調査とその手法を学ぶ



生物調査も体験

川に学ぶ活動の理念

指導者の心構え、参加者の理解と配慮を学ぶ



川活動の指導者として必要な理念を学ぶ

川に学ぶ活動の指導法

カヌーを使ったレスキュー、スローロープでの救助



スローロープの扱い方を学ぶ



転覆したカヌーのレスキュー



夕張川かわら版が主催

夕張川下り、魚獲りで川遊び

○日時：平成21年7月29日(水)
○場所：夕張川、ハサンベツ川

今年のかわ塾は、夕張川の川下りとハサンベツ川で魚獲り・生物観察を行いました。

夕張川は前日までの雨で増水しており、ほとんど漕がなくてもスイスイと流れます。あまり流れが速いので、ゴール地点を行き過ぎてしまいうそになるポイントもありました。普段は1時間30分かかると阿野呂川合流点からJR鉄橋下流までの距離を30分下ってしまいました。ポイント等の必要器材は、各団体が持ち寄つて調達しました。ご協力ありがとうございました。



オールを漕ぐ練習中です。



双胴船タイプとゴムボート2種類を使用



ハサンベツ川で魚や水生昆虫を獲って観察



ハサンベツ川も普段より水量が多めでしたが、子ども達は元気よく川の中を歩きまわっていました。*捕獲した主な魚種 ウグイ、エソウグイ、トウヨシボリ、フクドジョウ、モツゴ、イバラトミヨ、スジエビ等

